

授業科目(ナンバリング)	児童・家庭福祉 (DB202)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>この授業の目的は、社会福祉の視点から、<u>児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解することにある</u>。具体的には、<u>児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程、児童や家庭福祉に係る法制度、児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割、児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する</u>。この授業は、児童福祉の基礎的な価値と知識を学ぶことにより、展開科目の履修へとつなげていくための学科専門科目（基幹科目）である。なお、介護福祉養成における<u>その他の社会保障関連制度についての学習</u>としても位置づける。</p> <p>また、ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、授業の展開においては、課題に基づいたレポート作成やディスカッション、グループワークを受講生が行う。</p>							①②④⑤⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	子どもと家族の生活状況と支援ニーズ、これらに関わる福祉制度及び機関の概要について理解できる。				復習小テスト 定期試験	15% 35%	
情報収集、分析力	子どもと家族の支援ニーズの実態について情報を収集し、対応方法を説明できる。				課題レポート 定期試験	10% 15%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	多様な育ちの環境（障害のある子ども、ひとり親家族、多文化家族など）に置かれている子どもと家族の生活状況を理解し、支援方法について説明することができる。				課題レポート 定期試験	15% 10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（60%）は、児童福祉に関する専門的な価値と知識の習熟度を確認する（持ち込み不可；再試験を受ける場合は、必ず事前に教員に相談すること）。復習小テスト（15%）では、授業中に学習した用語・概念の理解度を確認し、解説を行う。課題レポート（25%）は、児童福祉に関する多様な情報を収集し、今後の児童福祉のあり方について考察することを求める。その内容については、授業中に説明し、必要に応じて授業内でフィードバックを行う。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、教員の指示以外での携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>子どもの権利を価値基盤に据え、子どもと家族の生活問題及び、児童福祉の政策と実践について理解することを目標とする。さらに、制度が未整備である場合は、社会資源の開発の視点を持つことも目指す。基本的には講義形式で授業を進めるが、必要に応じてグループワークを行う。授業は、教科書及び配布レジュメに沿って進め、DVDや動画視聴、インターネットを活用した情報収集を行う場合がある。この授業における予習復習は授業中に明確に示すため、欠席した場合は、その内容について受講生自らが担当教員に対し確認を行う必要がある。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：吉田幸恵・山縣文治編著（2019）『新版よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房。 参考書：適宜授業内で紹介する。 指定図書：小口尚子・福岡鮎美（1995）『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小学館。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>児童福祉において最も重要な価値（考え方）の一つは、「一人ひとりの子どもの目線に立って考えること」である。権利を持つ一人の人間として子どもの存在を捉え、子どもの気持ちや考えを理解するよう、身近な子どもとの関わりや小説・映画等の芸術作品に触れる機会を大切にほしい。また、新聞やインターネットを通して、子どもの生活する社会が抱える問題に関心を持つとともに、それらに対する自分なりの考え方を持つよう努めることを期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	<u>児童・家庭の定義と権利</u>	オリエンテーションを行い、この授業を展開する上で重要となる、児童・家庭の定義及び児童の権利の概念について学ぶ。	予習:教科書 pp. 18-21 を読む。 復習: 児童・家庭の定義と児童権利をまとめる。
2	児童の権利に関する条約	児童の権利に関する条約と歴史的背景について学ぶ。	予習: 教科書 pp. 22-25 を読む。 復習: 振り返りシートを提出する。
3	<u>児童・家庭福祉の歴史</u>	社会が児童と家庭を支援対象とした政策である、児童救済・児童保護・児童福祉の歴史について学ぶ。	予習:教科書 pp. 26-35 を読む。 復習: 児童政策の歴史をまとめる。
4	<u>児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境</u>	子どもの生活問題と支援ニーズについて、虐待、障害、DV、青少年育成等から把握する。	予習: 教科書 pp. 2-9 を読む。 復習: 子どもの生活問題を取り上げた新聞記事を調べる。
5	<u>児童・家庭に対する法律制度①—児童福祉政策の概要／児童福祉法</u>	戦後の児童福祉政策の歩みを理解した上で、近年の政策動向を踏まえつつ、児童福祉の基幹的な法律である児童福祉法の内容を理解する。	予習:教科書 pp. 36-43, 48-49 を読む。 復習: 振り返りシートを提出する。
6	<u>児童・家庭に対する法律制度②—児童福祉六法</u>	児童福祉を支える主要な法律（児童扶養手当法、母子及び父子並びに寡婦福祉法等）について、目的や対象、内容等を理解する。	予習:教科書 pp. 50-51 を読む。 復習: 各法律の概要を整理する。
7	<u>児童・家庭に対する法律制度③—児童福祉の関連法</u>	児童福祉に関連する法律（児童虐待防止法、DV 防止法等）について、目的や対象、内容等を理解する。	予習: 教科書 pp. 52-55 を読む。 復習: 各法律の概要を整理する。
8	<u>児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割①—児童福祉の行財政</u>	児童福祉を実施する行政の仕組みや財源、費用負担等について学ぶ。 また、第1回～第8回までの授業内容に基づいた小テストを行う。	予習: 教科書 pp. 56-63 を読む。小テストの準備。 復習: 小テスト内容の振り返りを行う。
9	<u>児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割②—児童福祉実践と実践者</u>	児童福祉実践において重要な視点や児童福祉実践者（親、家族、住民、ボランティア、児童福祉専門職等）の役割について理解する。	予習: 教科書VII章を読む。 復習: 振り返りシートを提出する。
10	<u>児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割③—児童相談機関の役割</u>	児童相談機関（児童相談所、福祉事務所等）の組織体系、児童相談所と市町村の連携、児童相談機関の活動と実際について理解する。	予習: 教科書 pp. 64-73 を読む。 復習: 児童相談の役割についてまとめる。
11	<u>児童・家庭に対する支援の実際—児童虐待防止活動①</u>	児童虐待防止の基礎となる児童虐待対応の歴史や、子どもに対する影響等への理解を深める。	予習: 教科書 pp. 168-171 を読む。 復習: 虐待とは何かについての文章を書く。
12	<u>児童・家庭に対する支援の実際—児童虐待防止活動②</u>	児童虐待防止活動における専門職や地域の役割を中心について学ぶ。	予習: 教科書 pp. 168-171 を読む。 復習: 虐待防止のために必要なことを考える。
13	<u>児童・家庭に対する支援の実際—社会的養護①</u>	社会的養護の対象となる子どもと家族について理解し、日本における社会的養護の概要について学ぶ。	予習:教科書 pp. 94-95, 104-107, 172-175 を読む。 復習: 振り返りシートを提出する。
14	<u>児童・家庭に対する支援の実際—社会的養護②</u>	社会的養護の下で育つ子どもの気持ちや考えを理解するために、映画（一部抜粋）鑑賞を行う。	予習:教科書 pp. 94-95, 104-107, 172-175 を読む。 復習: 振り返りシートを提出する。
15	<u>児童・家庭に対する支援の実際—障害のある子ども・青年の支援／授業のまとめ</u>	障害のある子ども・青年の生活問題と、それに対応する政策及び実践のポイントについて学ぶ。 15回の授業のまとめを行う。 ※課題レポートの提示を行う。	教科書 pp. 88-91, 164-167 を読む。 復習: 振り返りシートを提出する。期末試験に向けた勉強を行う。課題レポートを作成する。
16	定期試験	15回の授業の習熟度を筆記試験を通して確認する。	